



Title	日本語・日本文化 第44号 奥付
Author(s)	
Citation	日本語・日本文化. 2017, 44
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/60417
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

執筆者紹介

中田 一志	本センター教授
岩井 茂樹	本センター准教授
蔦 清行	本センター准教授
藤平 愛美	本センター特任助教
小南 淳子	本センター非常勤講師

編集後記

『日本語・日本文化』第44号をお届けでき、安堵しているところである。今号は、掲載された五本の研究論文、および一本の研究ノートのうち、日本語学に関するものが二本、日本文化に関するものが四本という内容である。

中田論文は、否定疑問文「じゃないか」を談話レベルから見ることによって、否定疑問文において先行研究で指摘された統語的特徴がさらに一貫して説明されることを立証した論考である。岩井論文は、外国人の視点からの日本の「痴漢」の言説の生成と変化の理由について、社会的背景を明らかにすることによって論じたものであり、一方、研究ノートは、本誌第41号で岩井氏が指摘した「痴漢」の流入経路の内の一つである禅宗関係資料から、「痴漢」の日本への流入と禅宗との関係について、その時期や経緯など全体像を提示したものとなっている。蔦論文は、蘇東坡の詩と黄山谷の詩について、中世文化人の日記における記述の考察により、両者には享受のされ方に違いがあったという仮説の検証をしており、藤平論文は、感謝表現「N{を/を}ありがとう」という形式について、大規模コーパスを使用し、共時的、通時的観点からその意味・文法的な違いについて分析している。また、小南論文は、松本清張の作品に登場する女性の描写にあらわれる松本清張の女性観について女性学の視点から論じたものとなっている。

前号から装丁を一新した本誌が、前号の二倍の数の論文を掲載できたばかりでなく、いずれも研究テーマに対する執筆者の真摯な姿勢が伝わる力作揃いであることは、この一年で一層の飛躍をしたことのあらわれと自負したい。次号では、言語・文化・教育という各分野からのさらなる意欲的な投稿を期待するとともに、本センターが「日本語」「日本文化」教育センターとしてさらなる研鑽を積んでいく場となることを願ってやまない。

『日本語・日本文化』投稿規定

1. 資格：本センターまたは関係機関所属教員（非常勤を含む）及び『日本語・日本文化』編集委員会において適当と認められた者。
 2. 内容：日本語・日本文化等に関する未発表の研究論文・研究ノート・研究報告等。
 3. 体裁：研究論文はA4用紙35字×35行20,000字以内（欧文はA4ダブルスペース30行10,000語以内）、研究ノート・研究報告は10,000字以内（欧文は5,000語以内）。
 4. 要旨：本文和文の場合、欧文による要旨（A4ダブルスペース1枚）を、欧文の場合は、和文による要旨（800字程度）を添付。
 5. 採否：原稿の採否は『日本語・日本文化』編集委員会が決定。
-

編集委員

小森 万里 山川 太 佐野 方郁

日本語・日本文化 第44号

2017年3月31日 発行

編 集	大阪大学
発 行	日本語日本文化教育センター 〒562-8558 箕面市粟生間谷東8-1-1 電話 (072) 730-5459 FAX (072) 730-5074
印 刷	株式会社アイジイ